

# 第 51 回 中国地区英語教育学会 研究発表大会（中止） 研究発表申し込み一覧

（申し込み先着順）

発表タイトル・所属・お名前	発表要旨
<p>日本語を母語とする高校生英語学習者を対象とした英語リズム指導法の再検討 —模倣型指導と視覚分析型指導を用いた比較研究—</p> <p>広島大学 森 貴博</p>	<p>本研究は、リズム指導法として提案されてきた模倣型指導と視覚分析型指導の高校生への効果を検証する。模倣型指導とは、英語のモデル音声を真似して発音させる指導法である。一方視覚分析型指導とは、英語の強勢位置を視覚的に捉え、学習者自身が分析しながら行う発音指導法である。本研究では、模倣音読でリズムを向上させるためには最低でも 4 週間要するという先行研究を根拠に、4 週間に渡って両リズム指導法の効果検証を行う。</p>
<p>外国語（英語）学習における遠隔教育に対する生徒の態度と認知</p> <p>広島県立尾道商業高等学校 藤居 真路</p>	<p>遠隔教育の環境が十分に整わない状況下において、G-Suite を用いた外国語（英語）学習への取組を高校生に実施した。そうした状況下における学習者の状況認識と心的な状況との関係について質問紙法を用いて調査を行った。その結果を報告するとともに、今後のコロナ禍に伴う休業等への対応方法について考察したい。</p>
<p>高専での英語多読指導におけるオンライン記録媒体「多読 Moodle」導入による指導者意識の変容に関する質的研究</p> <p>島根大学 篠村 恭子 松江工業高等専門学校 服部 真弓</p>	<p>多読の読書記録媒体として従来の記録用紙に代えてオンライン記録媒体である「多読 Moodle」を導入し、記録媒体の違いによって指導者の多読指導に対する意識に変容が見られるかを 4 名の教員を対象に質的に調査した。その結果、変容が見られる点と見られない点があったが、記録媒体以外の要因も大きいことが明らかとなった。</p>
<p>海事英語 ESP 語彙表の開発 —『IMO 標準海事通信用語集』 Spoken BNC 2014 の語彙比較から—</p> <p>海技大学校 水島 祐人</p>	<p>ESP 語彙指導において、語彙表の開発は一般英語の学習を専門分野の英語学習へ効率的に橋渡しするために不可欠である。本研究では、海事英語教育で用いられる、『IMO 標準海事通信用語集』の用例に含まれる語彙をコンコーダンス・ソフトウェアで Spoken BNC 2014 の語彙と比較し、海事分野の特徴語を抽出した「海事英語 ESP 語彙表」を開発する。</p>

発表タイトル・所属・お名前	発表要旨
<p>文化の衝突事例とその解決方略からの異文化教育への示唆： 英語科教員志望者の見た事例より</p> <p>NPO 災害・危機対応支援センター 森 康成</p>	<p>ますます国際化する日本社会にあつて、文化の衝突事例とその解決方略から異文化教育への示唆を考えてみたい。英語科教員志望者の周辺で発生する文化の衝突事例を取り上げて研究をした。研究結果は、英語教育関係者の周りで発生する文化の衝突事例の把握と解決方略からの示唆により英語教育へ寄与できるものとする。</p>
<p>高専における e-learning を活用した英語教育の意義と課題</p> <p>徳山工業高等専門学校 倉増 泰弘</p>	<p>2020 年 4 月より高専 A では、全学年（本科 1～5 年生）にアダプティブラーニング（適応学習）を主とした e-learning システムを導入し、各学年の英語科目のうち 1 科目の成績評価に含めるという取り組みを始めた。本研究では、英語教育が一般の高校や大学とは異なる状況を抱える高専にとって、このような e-learning がどのような効果や意義を与えるのか、課題も合わせて考察する。</p>
<p>合意形成を目的とした役割練習が高校生の発話にもたらす変化</p> <p>広島大学附属福山中・高等学校 千菊 基司</p>	<p>合意形成の対話を成功させるには、論理的に話すことと、良好な人間関係の維持を目的とした言語使用ができなければならない。高校一年生の 1 クラスを対象に、役割練習を通じ合意形成対話を体験させる指導を行い、その前後に行ったスピーキングテストで得られた発話から、反論する前の発言の変化を分析し、指導の効果を検証する。</p>
<p>英語初学者の読み書きの困難さの原因を探る ipad 版アセスメントの開発</p> <p>島根大学 猫田 英伸 大谷 みどり 島根大学教育学部附属義務教育学校 後期課程 鎌田 真由美 三成 拓垂 嵐谷 恭子 島根大学教育学部附属学校学習生活支援研究センター 川谷 のり子</p>	<p>本研究では、「英語の読み書きに困難さを抱える英語初学者」を特定するためのアセスメントを紙版と ipad 版で作成し、中学校 1、2 年生約 550 名に実施して結果の差異を検討した。タッチペンによる文字入力と文字認識精度に課題が見られたものの、生徒の音韻表象、文字表象の生成保持能力の測定結果については紙版と ipad 版で大きな差は見られなかった。</p>

発表タイトル・所属・お名前	発表要旨
<p>中学校英語授業における多様な生徒への支援・工夫の在り方： 「学びのユニバーサルデザイン」 (UDL) の枠組みに基づく実践</p> <p>島根大学 大谷 みどり 猫田 英伸 島根大学教育学部附属義務教育学校 後期課程 嵐谷 恭子 島根大学教育学部附属学校学習生活 支援研究センター 川谷 のり子</p>	<p>本取り組みでは、中学校の通常学級における英語授業において、一単元を通して生徒に複数の選択肢を提供することも含め、子どもたちの多様な「学び方のニーズ」に対応する実践を行った。その後、個々の支援の在り方をUDLの枠組みに遡って解釈し、今後の指導改善への示唆を得た。</p>
<p>医療系学部におけるアクティブラーニングと内発的動機づけ</p> <p>近畿大学 田中 博晃</p>	<p>本論は医療系学部で行ったアクティブラーニング型授業とそれが内発的動機づけに与える影響に関する実践報告である。前期に30回の講義を行い、ペアワークやグループワーク、プロジェクト型学習、プレゼンテーションなどを取り入れた実践を行った結果、調査協力者の内発的動機づけの上昇が見られた事例について報告する。</p>
<p>An investigation of English Education in China during the Covid-19 Outbreak</p> <p>島根県立大学 郝 景新</p>	<p>Compared with Japan, the outbreak of Covid-19 in China began earlier and it was also brought under control earlier. Therefore, it is proposed that educational policies made during this delay by China can serve as references for Japan. There seems very few surveys or investigations regarding this topic. This investigation focused on official policies and progress of their implement in typical epidemic areas.</p>
<p>英語教育における「異文化・異文化理解」の語られ方を問い直す</p> <p>広島大学大学院 中原 瑞公</p>	<p>従来、日本の英語教育プロパーでは、「異文化」や「異文化理解」などの用語が当たり前のよう使用されてきた。本研究では、これらの用語に付けられた「異」を問題視する。「異」を自明視することによって引き起こされ、隠蔽されてきた様々な問題を取り上げ、批判的に考察することを通して、今後の英語教育プロパーへの問題提起とする。</p>

発表タイトル・所属・お名前	発表要旨
<p>教室外における英語スピーキング学習について</p> <p>—「英語村」に焦点をあてて—</p> <p>ELS (English Learning Support)</p> <p>吉川 正美</p>	<p>欧州や韓国で誕生した「英語村 (EV)」は、今や国内でも多様な形態で運営されている。EFL 学習者にとって教室学習と有機的に機能し目標言語の一層効果的な習得を促進する EV とは何か。本研究では、英語スピーキング学習を核とした EV について、実践評価アプローチにより理論的枠組や特性を明らかにし教育的な示唆を得ようとする。</p>
<p>単一事例実験デザインを用いた英語教育研究の役割と意義</p> <p>広島大学</p> <p>天野 修一</p>	<p>本発表では、英語教育研究における単一事例実験デザインの活用について考察する。単一事例実験デザインを頻繁に用いる分野もあるが、英語教育研究においてはその認知の拡大はいまだ認められない。そこで本発表は、単一事例実験デザインの理解しておくべき基礎的な知識を整理したうえで、その役割と意義の検討を試みる。</p>
<p>CLIL の思考を重視した小学校 6 年生の英語科授業</p> <p>—歴史上の人物の内容を活用して—</p> <p>海上保安大学校</p> <p>二五 義博</p>	<p>本実践的研究の目的は、小学校 6 年生の社会科で学ぶ「歴史上の人物の内容」を活用しながら、CLIL の 4 つの軸の 1 つでもある「思考 (Cognition)」を重視することが、子どもの英語学習への興味・関心、「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の育成、語彙の獲得などの面でいかに効果的であるかを探ることである。</p>
<p>大学生の第一言語及び第二言語による不平表現の比較</p> <p>広島大学大学院</p> <p>梅木 璃子</p> <p>広島文化学園大学</p> <p>山内 優佳</p>	<p>習熟度の低い英語学習者にとって発話行為を成功させることは容易ではなく、不適切な言語使用や発話行為自体の断念に至ることが明らかになっている。本発表では不平表現に焦点を当て、習熟度が低いとされる日本人大学生による英語での発話行為と母語である日本語での発話行為の傾向を分析し、発話行為の成功を妨げる要因に関する考察を報告する。</p>